



編集発行
財団法人 不老会
〒460-0008
名古屋市中区栄
2丁目10-19
名古屋商工会議所内
電話・FAX
(052)203-4580
ホームページ
http://furo-kai.or.jp



「イケてるジイさんになる」

常務理事 久野格彦

麻生元総理が総務大臣だった頃「高齢化社会における高齢者の活用」とか題した講演を拝聴する機会があった。現代日本の

があるのかは不明だが、①②については間違いではないと実感する。

高齢者が如何に優れているかの三要因は、先ず①幼少期から追加物などの不純物が一切無い食生活をしてきたので身体の基盤が盤石である。そして②戦中戦後の厳しい時代を生き延びてきた強い精神力がある。さらに③内地では爆撃や戦火を逃れて生き残ったという強い運がある。と力説しておられた。③の強運についてはどれほど実力の反映

そんな屈強なジイさん達に囲まれて常務理事会の末席を埋めている小職は五十五歳のひよつ子である。当初「常務理事会なんて体裁のいい老人会」ぐらいに思っただけだが、あに凶らんに。各人がその世界で功成り名を遂げた方々ばかりで、常識的な議論が展開し、的を射た結論に到達する。
理事会閉会後がこれまた凄い。その飲みっぷりといったら！飲み方が豪快なだけでなく飲ませ

方がこれまた上手い。自称酒好きの酒飲みの小職は毎回潰される。やっぱり酒飲みの歴史が違う。「怖いモン無し」とはこの面々の事を言うのである。

見窄らしい老人となつて生き残る事が想像出来ず、思わず神に祈つたという。「ああ、マリア様、早く父を連れて行って！」
「イケてるジイさん」とはどんなジイさんなんだろう。加齢臭もなく、口臭もなく、ヨダレも垂らさず、同じ話を繰り返さず、女性に優しく、ダンディーでセンス良く…。ああ、既に何項目かが欠落している。最早この路線は自らの選択にはない。となれば進むべきは不老会常務理事会の「あの」面々の路線しかない。怖いモン無しの侮れないジイさん達。

さて、不老会とは不思議な会である。なぜこれほどまでに前向きに「死」と向き合えるのか。高齢者が会員の殆どを占め、人生の最期に向けての準備に精を出す。いや、自身の最期のシナリオを昇天後まで書き込む。終末に向かう凛々しい老人達の姿に圧倒される。

自分を省みれば、まだまだこの世でやり残しがあるような気がして焦るばかり。とうの昔に折り返し地点を過ぎていくのに、未だ煩惱の化身のようなモンである。今際の際に瞼を閉じたとき、「あーあ、面白い人生だった。」と果たして思えるのやら。

友人の修道女は、自らの父親が倒れ「いよいよ」となった時、憧れていたダンディーな父親が

ま、いいか。それが「イケてるジイさん」って事にしよう。



風信子

「メロスを待てるか」

最後に筆を執って手紙か葉書を書いたのは何時だったろう。乱筆である事も手伝って他人に拙い文章をさらす事は極力避けたいと願っている。手紙に取って代わって普段の遣り取りは電子メールに依存している。元来メールの文化はカジュアルなもので、ビジネス上の正式文章ではなかった。しかし今では友人間の挨拶程度の軽いものから重要な文書や情報の送受信まで日々の暮らしに欠かせなくなってきた。

手紙を書かざるを得ない場合とはどんな時であろう。こちらの気持ちを最大限に表したい場合—お祝いであったり、お詫びであったり、お礼であったり、—ではないだろうか。しかも、先方からの返事を期待したり強要したりしない一方的な、もつと言えば形式的な場合が多いような気がする。

つい最近まで、一般的に日本人の間では書簡の遣り取りが日常的に行われていた。それが電話とメールに取って代わった。確かに便利である。手取り早いし相手の返事を長々待つ必要がない。その代わり手紙の行間や文字から滲み出る送

り手の心情や人柄を想像し独りごちる事もなくなつた。もつと言えば相手をおもんぱかる気持ちが必要になつたのではないか。「便利さ」の享受とはその一方で何かを「失う事」でもある。

先人達は相手にこちらの思いを如何に的確に伝えるかを配慮して手紙をしたためた。その思いが伝わる事を信じて他人に、或いは時には鳩に手紙を携えた。物理的に手紙が届く事を信じ、内容が相手に理解してもらえらる事を信じ。後は待つ。信じて待つしかない。

この「待つ」という事を「便利さ」は解消してくれている事になっている。便利になつて待つ必要が無くなる。前で述べた図式を逆にさかのぼると「便利さ」は「待つ」を解消し「信じる」事を希薄にさせる事になる。

セリヌンティウスは親友メロスを「信じ」そして「待った」。何も太宰治を引き合いに出す事もないが、「便利さ」が極まると新世代の若者はこの手の話をどう理解するのだろうか。

リニア新幹線は東京—名古屋を40分で結ぶ。現在ののぞみの所要時間の半分である。筆者は東京—名古屋を頻繁に行き来するが、このリニア新幹線の速さはもう「便利さ」など通り越してしまつて有り難みさえ感じないのだが。(格)

(財) 不老会名古屋市立大学部会総会のお知らせ

平成二十二年度の部会総会を左記のとおり開催いたしますので、市立大学に登録されている会員の皆様におかれましては、多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

日時 十一月三〇日(火) 午前一〇時三〇分より
会場 名古屋市立大学同窓会館二階会議室

ご出席くださる方は、ハガキに「部会総会出席」と明記し、会員番号、住所、氏名をご記入の上、十一月十九日(金)までに左記にお送り下さい。

本案内をもって通知に代えさせていただきます。

なお、当日午後二時より大学本部棟ホールにおいて、名古屋市立大学解剖感謝式が執り行われますことを併せてご案内申し上げます。

(財) 不老会名古屋市立大学部会
会員 各位

(財) 不老会名古屋市立大学部会会長 大森 鶴正
名古屋市立大学医学部長 白井 智之

〈送付先〉

〒四六七—八六〇—一 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄一
名古屋市立大学医学部第一解剖学教室気付

(財) 不老会名古屋市立大学部会
電話 (〇五二) 八五三一八二二一

医学のおはなし

私は長い間痛みの研究をしてきた、しかし残念ながら一部の友達や

学生、同僚をのぞいてそんなことは知らない。なぜなら看板が『解剖学の教授』であったからだ。当然のこと、入学したての学生に実習を教えていると、「先生は毎日ご遺体の解剖をしているのですか」とよく聞かれた。「痛みの研究をしている」と言うと、「そうですねですか」と言われ終わってしまう。

痛みと健康(1)

愛知県心身障害者コロニー総長

杉浦

康夫

つの症状であり、病気の原因ではないと考えているからだと思われる。痛みについて分からないことが多い。

痛みは起きてから消えていくまで、あるいは残ってしまう痛みになるまでに幾段階もの過程をとる。最初に怪我をしたりして痛みが起こったとき、起こった場所、その組織にふさわしい形で、その

痛みは、医者にかかる人の半分以上が持っている症状である。しかし、ほとんどの医者も患者もそれをあまり重視しない。特に原因がはっきりした痛みについては

怪我の程度に応じて、痛みは伝えられ、痛く感じるようになる。そして一日も経たないうちに周りの炎症を起こし、腫れすぎて痛みになる。おそらくはこのような段階で医者に行き適当な治療を受ければ、一―二週間、骨折などでも一―二ヶ月で完全に治癒することになる。

また神経細胞の遺伝子上の変化が起こり、神経に細胞死が起こり、この結果、何の刺激もないのに痛みが起こるようになってくる。症状としては、取り除かれない痛みとして続くことになる。こうなると患者自身のQOLは極めて低下する。痛みのひどい状態が続けば動けなくなり、精神的も不安になる、さ

らには動かないことで足腰も弱り、体力も落ち、全身の衰弱も起こる。人によってはある時期から原因は分からない痛みが続くという慢性痛になる。こうなると治療法も明らかにならず転々と医者を歩くという患者になってしまうことになる。痛みをなくす治療は遅くなるほど複雑に難しいことになり、局所の痛み治療だけではすまなくなってくる。日本人の中にある「痛みを堪え忍ぶ我慢する」考えはある意味、痛みの治療を遅らせ難くしている。生活の中で痛みを感じないことは無理であり、常に痛みを感じるから人としての健康な生活ができる。つまり痛みがあるから危険を避け、痛みが起るから無理な行動を抑え、快適な生活ができず、痛みを感じない人は体を守れず、精神の発達が遅れがちであったり、若くして命を失うこともある。痛みは正常な感覚として、健康な生活をするために重要な要素なのである。

献体の塔清掃奉仕作業

- 一、担当ブロック 濃尾ブロック
- 二、支部 愛知西部、稲沢市、一宮市、西春日井岩倉、尾北、小牧市、春日井市、東濃、岐阜、揖斐本巢、大垣、養老三、日 時 十二月十四日(火) 午前十時より
- 四、集合場所 名古屋市平和公園 献体の塔前広場

- 服装は、帽子、長袖、タオル、飲物などを用意しご参加ください。
- 参加者はすべて勤労奉仕とします。
- 不老会は事故責任は負いません。

年末年始のお知らせ

不老会事務所の年末年始の休業は次のとおりです。

平成二十二年十二月二十七日(月)より平成二十三年一月五日(水)までこの間におけるご成願(死亡)の連絡は、通常どおり大々学または取次代行の葬儀店にお願いいたします。

九月十七日の清掃



塔の清掃に参加された方で右記、写真をご希望の方は不老会事務所までご連絡ください。

二〇一〇年九月

「献体の塔」の掃除を終えて
中区支部 梅村 昭博

私は誰かに奨められたわけではなく、自分の意志で「献体の塔」の掃除を行わせて頂くとうと心に堅く決意し、二〇〇七年十二月十八日から「献体の塔」の掃除をスタートして以来、必ず毎月一回掃除道具を持ち、東名名古屋インター

近くにある平和公園内の「献体の塔」の掃除を行わせて頂いております。

昨年の二〇〇九年八月三十日には、いつものように「献体の塔」の掃除をしておりましたところ、午前十時頃に炎天下の中で冠動脈の攣縮による可逆性狭心症で、気を失って倒れてしまい、意識不明のままどれほどの時間が経過したのか分かりませんが、通りがかりの人に気づけて頂き、人工呼吸を受けながら大きな声で呼びかけて頂いたお陰で、ようやく意識を取り戻すことができ、命を助けて頂きました。

その時は意識がもうろうとしていたため、助けてくださった方のお名前も聞くことができず、今だに誰に助けて頂いたのかも分かりませんが、ご親切に命を助けてくださった方に毎日心から感謝しております。

倒れてからは、おそろおそろ掃除をさせて頂いておりましたが、

お陰さまで九月を迎えることが出来、この一年間も掃除を続けることが出来ました。これもひとえに命を助けて頂いたお陰でございます。この感謝の気持ちを込めて昨年と同様、不老会へ二百万円を寄付させて頂きたいと思えます。

今年の八月三日からは、「今年が一番大事な年」一日一生と名刺の裏に記しております。これからも悔いのないように「献体の塔」の掃除に取り組んでゆく所存でございます。

感謝



ホームページの

育成につきお願い

相談役 加藤 豊

七月十三日より不老会ホームページを一新しました。

会員の皆様でご自身またはご家族がパソコンをお持ちの方は、ぜひ一日に一度はアクセスして見て下さい。

ホットニュースや、当会のなりたち「不老」バックナンバー、探訪記や、各所への豊富なリンクなどを設けました。

但し現状のページはまだ未完成です。今後皆様のご意見を取り入れて、より見易いものに成長させてゆきたいと考えて居ます。

アクセスがありませんと、この樹も枯れてしまいます。どうか会員の皆様のご後援をお願い致します。

URLは <http://furo-kai.or.jp> です。よろしく。

おわび

「不老」九月号一ページ二段三行目「六月号」は「八月号」、三段末尾より七行目、高木健太郎先生の前「副理事長」は「顧問」、六ページ下段、俳句 川合正彦様は川井正彦様の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

光をありがとう

拝啓 秋暑きびしくまだまだ続きそうでございます。

この度、財団法人不老会の尊い皆様のご意思に依りまして角膜の提供与り誠に有難うございました。

八月十九日に眼科杉田病院にて移植手術を受けました七十一歳の男性でございます。八月十八日に職場の方へ急遽電話が入り、ドナーの方から提供がありました。何故こんなに早く、天にも昇る想

いでびつくり致しました。手術も無事終了し、今は感謝の気持一杯で安堵しております。想定外の事でドナーの方の御冥福を祈りつつ、神仏に参拝させて頂いていきます。

不老会の皆様の御健康とご活躍を祈願し、今後共よろしくお願いを申し上げます。 敬具

岐阜県揖斐郡池田町 窪田 孝

角膜の提供を受け、開眼手術も無事にすまうことができました。

まだ治療通院中ですが、世の中がこんなにも明るいものかと感激しております。ほんとうに感謝しております。

ありがとうございます。

三重県尾鷲市 川口 福男

会員投稿(五十音順)

短歌

○無曆庵と名づけし山居四十余年 富士の眺めも今夏が名残り

一宮市支部 入山 鎔

○途次みちみちに求めし馳走持ち寄りて 献体塔に月見をせむか

東海市支部 鈴木 清美

俳句

○茗荷花枯草の下顔を出し

一宮市支部 足立 祐子

○過客なる雲名月を連れてゆく

岡崎支部 大島 翠木

○写経一卷無心に給ふ秋の水

東区支部 大塚 方子

○少年と仔犬が走る秋夕べ

知多南部支部 川井 正彦

○夏の雲駱駝の瘤と旅をする

飯田市 林 梅翁